

湘南学園だより

No.105

発行
湘南学園だより部
編集

『研究と修養』

学園長 藤岡貞彦

今年に入ってから、学園のすみずみで、「研修」が一段とさかんになってきました。たとえば、8月31日午前中には、はじめての事務職員の職場研修会が、午後には、小学校教諭の「生活指導」研修が開かれているという盛況です。ごく最近では、中学三年生の先生方が、「キャリア教育」についての小研修会を開かれました。学年別という新しいところに注目して私も参加し、発言までしてしまいました。

「文運隆盛」ということばがありますが、昨年来、学園内に「研修隆盛」の波がたかまってきました。うれしくてなりません。

私は、本学園着任時に、「学園長所信表明」(「湘南学園 70年の歩み」)の中で「傾聴と研修」の重視を力説しました。「PTAが一定の財務援助を教員個々に保障していることに注

目する」として学園の責務として、「財政措置・勤務条件の改善をはかりたい」と就任にあたっての約束をのべました。

研修の重視は、昨年末、中・高パートからわきおこってきたヌーベル・バーグ(新しい波)だともいいます。

昨年からは、数多くの外部講師をお招きして、さまざまな研修会が開かれました。中高主催の会なのに、幼稚園の若い先生方が大勢参加されたのを覚えています。学園全体では、とりわけ「生活指導」の講演が重ねられ、思春期の悩みの実態と対策があたりあわれています。また小学校では、かねてより、「授業研究」を軸とした研修の伝統があり、つみ重ねられてきています。

教職員研修について、現理事会が、労働条件改善の重要テーマとして、

系統的な研修を財政上も保障しようとしていることを、学事の長としてたいへんありがたく思っています。

理事会やPTAが、教職員の研修に力を入れて下さることは、父母保護者の学校・教師への熱い期待のあらわれであり、これこそPとTの共同経営の核心に他なりません。

「研修」といえば、教育委員会や私学協会がつくったメニューにもとづく学外での研修会への参加や、外部講師による講習がすぐ思いつきます。その目標は、教育課程の上からの徹底普及、つまりは、国定の「学力」や「生活指導」の普及にあります。十年研修二十年研修、ひいては教員免許証の更新が、モデルとして思いうかびませんか。

いいえ。本来の「研修」とは、上から定形となつて行われるものではないのです。「研修」とは、教職員の自発性にもとづく「生涯学習」のことなのです。

そもそも、「研修」という日本語は、誤解を招くことばなのです。実は、「研修」とは、「研究と修養」の略語です。「研修」の本来の意味にたちもどって考えれば、研修のイメージはいちだんとひろがりふかまります。「研修」は、医師や裁判官などの専門職が、日常的に必要とする活動なのです。人間の日々の更新や技術上のイノベーション、発明発見さえ、日頃の「研修」のたまものであり、教師の人間人格の日々の再生が、教育の世界では「研修」と呼ばれるべきことなのです。昨日の自

分や授業と今日のそれがちがうこと。これが「研修」の目標です。

本学園の教職員に、今緊急に求められているのは、人格と教育技術の日々の更新、教育者としての蘇生、つまりは、「研究と修養」のたえざる過程そのものです。

本年度、中・高パートが「学校の新しいあり方」を求めて、他校の実践や経験から学ぶ比較研究を始めています。おそらくは、国際的比較の探求にまでふかまっていこうでしょう。また小学校の有志が今夏、フィンランド教育に視察旅行に行かれたとも聞いています。いずれも、ハツとするような、すぐれたゆたかな発想による研修のころみです。

教職員の「研究と修養」の日々の精進。これだけが学園の未来を保障する原動力です。法人理事会も、そのための援助を惜しまないでしょう。単なる「生きのこり」の方策にとどまらない日々のイノベーションを、教職員の皆さんに求めてやみません。もちろん、私自身に対しても。



『らんらんこにこらんこらんこ』

年長組担任 藤田さつき

十月十四日、湘南学園アリーナで幼稚園の運動会が行われました。幼稚園の子どもたちはこの日を『らんらんこにこらんこ』と呼んでいます。子ども達一人ひとりが一日を過ごせるようにこにこえがおでネーミングがつけられたのです。この日の主役は勿論子ども達！その中でも年長児は、会の中心となって司会や道具の出し入れ、未就園児へこほうびのペンダント渡し、年少・年中児ゲームの補助などを行いました。こうした係の仕事は、年長児が自分でやりたいものを選んで決めました。

司会の年長児は二人一組となつて当日のプログラムを紹介していきます。言葉の内容は一緒に話す相手と考えました。緊張しながらも二人でギュッと手をつなぎながらマイクを持って声を合わせている姿や、「がんばってね」と身振りつけて応援する姿は微笑ましいものでした。

また、道具を運ぶ係の年長児は、自分達が動かなかつたらプログラムが進行していかないことを自覚し、張り切つて自分の出番を待ち構えていました。年少児が渡るベンチをしっかりと押さえたりなど、ゲーム中も一緒に参加しながら一番近いところで、自分よりも小さいお友達に「がんばったね」「じょうずだったよ」などとたくさん声を掛けてくれました。

高く持ち上がるバルーンをみて、子ども達からも歓声が……。このバルーンを通して、みんなの気持ち合わさった時の心地よさを十分に感じ取っていたのではないのでしょうか。ダンスを踊り終えた後の自信にみちあふれる年長児の顔がとても印象的でした。

終盤の終わりの会では、最後まで一緒に頑張つた年少・年中の仲間と年長児から、手作りの「こにこメダル」が渡されました。日頃から異年齢児との交流を大切にしながら保育を進めています。年中児とはペアを決めて自分の妹・弟のように接している年長児。メダルの裏には「また一緒にお弁当食べようね」「ダンスかつこよかったよ！」などとメッセージもかかれていきます。大切な仲間贈るひとつひとつが年長児の心のこもった手作りなのです。渡すときには気づかれぬようにポケットや服の中にそっと隠し、渡すときになつたら目の前でバツとメダルをだすという演出もあつてか、首に掛けてもらった年少・年中児の喜びも大きなものであつたようでした。

らんらんこにこらんこが終わつて

数日後の園庭では各学年で踊つたダンスの曲が流れ、互いにまねっこをしながら余韻を楽しんでいる姿が続いています。また、バルーンをやつてみたいという年中児の声をきいて、張り切つて教えてあげる年長児の姿もみられます。幼稚園の大きな行事はその日限りのイベントではありません。らんらんこにこらんこパート2に突入です！

『らんらんこにこらんこ』を通して、立派な年長児の姿をみた年中児の中では、早速「さくら(年長)になつたら早くもマイクをもつてはなしたい」「おおいままをはこぶおしごとがしたい」「はやくバルーンをやりたい」などと話す声も聞かれます。さくら(年長)になつたらこの次は自分達がやるんだ！という頼もしい気持ち、子ども達の心につかりと受け継がれているようです。



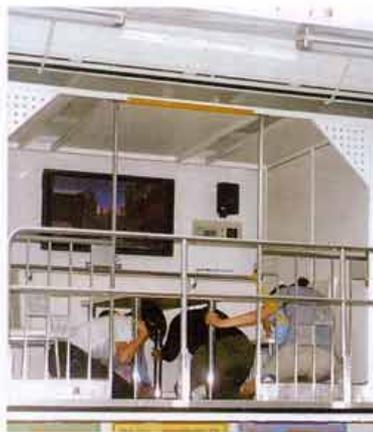
『乾パンの日』

年長組担任 今井里恵

いつ何時起こるか分からない地震。新潟での中越沖地震など、各地の大きな地震被害のニュースを耳にする度に、わが身に降りかかった際の不安を覚え、保育中の災害となつてしまつたら：180人の大切な命をいかにして守るか、幼稚園でも日々検討と訓練を重ねています。

【避難訓練と起震車体験】

どのような状況で起こるか分からない自然現象だけに、避難訓練は様々な生活場面を想定し、月に二度のペースで定期的実施しています。また、年に一度9月には、藤沢市災害対策課の協力を得て起震車体験も行っていきます。この日は保護者の方にも一緒に訓練に参加していただき、災害時の対応や日ごろの備えの大切さについて各ご家庭でも改めて考え直すきっかけにしていきたいと考えています。



【乾パンの日】

例年の避難訓練・起震車体験に加え、今年度は地震後、ライフラインが途絶えてしまった生活を模擬体験する取り組みも導入しました。「乾パンの日」と名付けられたこの取り組みは、衛生面を考慮して水道だけは使えるものの、電気なし・お弁当なし・水筒の飲み物なし。停電状態の中、学園に備えられている乾パンと非常用飲料水だけで一日を過ごすというものです。

当日の9月19日は曇り空の涼しい日。「いつもより幼稚園が暗いと、ちょっぴり寂しい気持ちになるね。夕方になつたらもっと真っ暗になっちゃうのかな。」「いっぱい遊んだら汗が出てきちゃった」。扇風機が使えないって大変なことだね！「今日はお水が使えなけれど、本当の地震でお水が使えなくなっちゃったら、トイレを流すときはどうするの？」子ども達の中にはいろいろな発見や疑問がいっぱいです。お昼の時間となり、ペコペコのお腹。乾パンだけとは言っても、みんなで一緒に食べるとなると気分はわくわくしてくるようでした。

それはそれでおいしく楽しいひと時にお腹も満たされた子ども達でしたが、「もしも本当の地震の時には、この乾パン一缶を家族みんなで分け合わなくちゃいけないかもしれないね。」

という話題に「えーそれじゃあ二日に何粒食べれるかな？僕すぐお腹がいちやいそうで心配だよ。」「ずっと乾パンばかり食べるのも飽きちゃいそうだね。」「それにやっぱりママが作ってくれたおいしいご飯がいいな。…」そんな声もあちらこちらから聞こえてきました。



時間が過ぎ、生活の端々で不便さを感じる度に、「もしも本当の地震だったら」と自分の生活に置き換え、感じたり考えたりすることも大きくなつていったのでしよう。「夜寝るときね、窓の近くで一人で寝てるんだけど、大丈夫かな？」などと様々な場面を想定して不安を口する姿も見られてきました。しかし、それだけで終わらないのが年長さん！そんな友達への不安に対して「うちでは枕の下に懐中電灯を入れてあるんだよ。そうすると地震の時も、夜トイレに行

きたくなつちやつたときも安心だよ」「水道が使えなくなつちゃうと困るからお風呂の中にはいつもお水を溜めておくといいんだって」など5歳児なりの生活経験や知識を元に「一緒に考えたりアドバイスして解決しようとする姿はさすがさくら組さん」ととても感心しました。

翌日登園してきた子ども達の口からは「僕も昨日から自分のバケツにお水を溜めておくことにしたんだよ！」「家にも乾パン買ってもらうことにしたの。自分のリュックに入れておくんだ。」と日ごろの備えの大切さを子ども達自身が感じ、しっかりと意識を持つ様子がうかがえました。また次の日のお弁当時の嬉しそうな表情：ママ手作りのお弁当にみんないつも以上にこにこ顔がいっぱいでした！衣食住が豊かに満たされた生活の中で、当たり前前に感じていることの有り難さを知るきっかけともなつた『乾パンの日』だつたのではないのでしょうか。

子ども達だけではなく、同じようにこのような経験が初めてだった私達保育者にとつても本当に貴重な経験の一日となりました。

小学校生活指導 第一回研修会 報告

南田美加

「学校生活で現れる

子どものSOSのサイン」

Ⅱ問題行動のとらえ方と

児童・保護者への働きかけ

方と 対応の仕方Ⅱ

講師 早稲田大学 菅野 純氏

夏休み最終日の八月三十一日、菅野純先生をお招きして、子ども達への理解を深めるため、教員向けの研修会を行いました。参加者は小学校二六名、保健室三名、幼稚園十名の計三九名でした。

「世の中には善人も悪人もいない。あるのは、ゆとりのある人とゆとりのない人」とおっしゃる先生。サインを発する子ども側の心的・発達の原因を事例を交えて具体的にわかりやすく話して下さいました。

中でも、先生のイメージする心のモデルⅡ「心のピラミッド」は人間の心を育てる上でとても参考になる図でした。

〈心の基礎〉の上に実現するもの……
心の豊かさ、あたたかさ、広さ、自己発揮、活躍、達成など

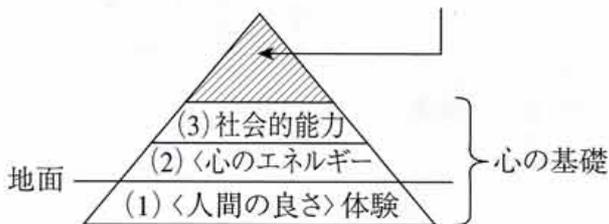


図1 心のピラミッド

「人間っていいものだなあ」というⅡへ人間の良さⅡ体験がその土台となつて、安心感・楽しい気持ち・認められる喜びが、元気の元、意欲の素Ⅱへ心のエネルギーⅡになる、それが形成されてはじめて、人の中で生きていく力(ガマン・待つ)Ⅱへ社会的能力Ⅱが育つ。そういつたへ心の基礎Ⅱがあつてこそ、人は活躍したり頑張れたり豊かな心を持つことができる。この心の土台をいかにしっかりとしたものにするか、家庭と社会の果たす役割は大きいとの事。

言葉にならない子どもの心のへことばⅡをひもとき、子どもを認め、子どもの心につばい○をつけてあげる事の大切さを学びました。

また、集団の中で学ぶ学校に入ってもなお「ほくのこと

だけを聞いてほしい」と「二者関係」を求めるとは、本来ならば就学前に卒業しているはずの事で、変わらない相手との安定した「三者関係」を築けていないことが原因と。集団関係を築く前の「二者関係」「三者関係」の視点は新鮮で考えさせられました。

「学校は快適でなくて良い、世の中は快適な環境ばかりで仕事ができるとは限りませんから」、「社会に出てからは『あの年平均八十点なんだって』とは言われない。『気働きが効く人だ』『よく気配りができる』『挨拶がよくできる』という評価にかわる」

「昔は、玄関では靴をそろえて脱ぐなど、よその家に行ったときに迷惑にならないようにと躰けた……」

という話には、納得。我々大人が、目先の事だけにとらわれず、社会に出て生きていく上で何が大切なのかを見据えて子ども達を育てていく事の大切さを痛感した研修会でした。

「表現（民舞）」から学ばうと

三浦亜紀

私の湘南学園小学校生活初めての「たいいく表現まつり」。体育科の私がこの文の冒頭に述べるにはふさわしくないことかもしれないが、私はこの「表現運動」に苦手意識を持っていました。私が小学生の頃の運動会と言えば「リズム運動」ばかりで、そこには楽しさや興味をもつこともなく、それ以来、ダンス、踊り、創作といった全ての「表現運動」に対して、いつの間にか苦手意識を持つようになってしまったのです。

体育主任として、「この大きな学校行事を成功させなくてはならない」と、重荷だけがのしかかる中、そんな私の不安な気持ちを取り除ききっかけをくれたのは子ども達でした。一学期の後半、「先生、今年には私たち何を踊るの。」私の担当する学年の子ども達が真剣な顔をして聞きにきました。まだ、前年度のビデオでしか「たいいく表現まつり」をみたことのない私には子ども達に「みんなは何が踊りたいの」と聞き返すと、「荒馬、花笠、はねこ、七頭舞、南中ソーラン節」と、たくさん民舞が出てくることに私は驚きました。そして、子ども達の民舞に

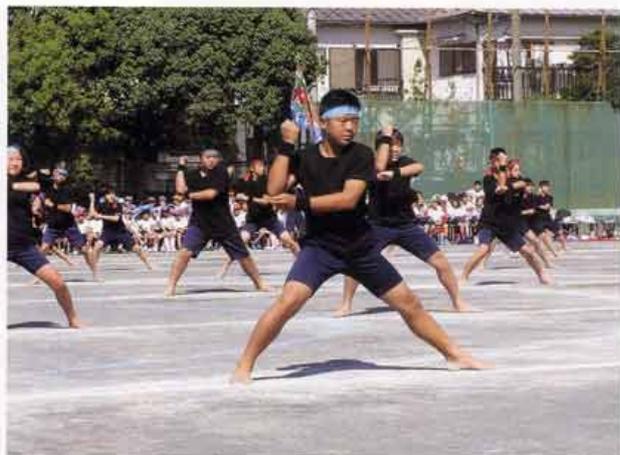
対する熱い気持ちを感じ、私は、この子ども達の気持ちを裏切つてはいけない。なんとしてでも応えなくてはならないという気持ちになりました。そして、初めて民舞に望んだ夏の研修会で、今まで苦手意識としてあったものが嘘であるかのように私は民舞の素晴らしさを肌で感じる事ができました。

「民舞」には、ただ身体活動というだけでなく、「集団で学ぶ楽しさ」がありました。そこには自分という人間、共に分かち合える仲間があります。そして一人ひとり役割があり、そこにいる全ての人間で作品を造り上げる素晴らしさがあります。さらに、そこでは言葉が必要とせず、身体活動を通して自分の存在価値を確認しながら、共に踊る仲間とコミュニケーションを図ることが出来るのです。また、その地域特有の伝統文化を学び、人とのつながり、人との関わりを民舞という踊りを通して自然と感ずることが出来るのです。

今年も台風による休校が何度かあり、少ない時間の中、どの学年も本当に良く頑張りました。一年生から六年生まで発達段階を通し



て、それぞれ自分達の持ち味を自分らしく出し、それぞれ精一杯踊ることが出来たのではないかと思います。二〇〇七年度の「たいいく表現まつり」は終わりましたが、その瞬間から二〇〇八年度はスタートしています。今年より来年、来年より再来年と日々精進し、子ども達の湘南学園小学校の六年間、六回の「たいいく表現まつり」を通して、何か心の支えになればと感じております。



最後になりましたが、右も左もわからない私を導いて下さった湘南学園小学校の先生方、道具作りに参加して下さいさったり、(二年生)お囃子隊に賛同して下さいさったり、子ども達の努力を支えて下さった保護者の方々、五年生の踊りに華を添えて下さった演奏家の方、大グラウンドやアリーナを快く提供してくださった中学・高校の先生方やこの「たいいく表現まつり」に関わった全ての方々、そして何よりもこの感動をくれた子ども達に。感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございました。

『雨にも負けず！俺らはいつでもオールMAX！』 ～中高第57回学園祭！～

中高生徒会指導主任
荒木伸浩

皆さんは、今年の中高学園祭にいらして戴きましたでしょうか？正門のところに作ったシンボルのアーチは、学園祭テーマの『WAVE』に合わせて、船が大海原を堂々と航海する様子を形作ったものです。実は、夏休み前に担当生徒が描いたそのイメージ画を見た時、僕は、「一体この絵をどうやってアーチとして形作るんだろうか？そんなこと出来るんだろうか？」と首をかしげていました。その生徒は、3月から春休み返上で新入生歓迎会のアーチ作りに携わった子で、実はこの時から「学園祭ではアーチ係長になつてもっともつとでっかいものを作つてやろう！」と心に決めていたそうです。そうした数ヶ月に渡る考察を経て、準備万端でイメージ画・設計・部品調達・組み立てと、今度は夏休み返上でアーチ作成に取りかかってくれました。そんなわけで僕が抱いた心配なんぞは全く必要なかったようです。学園祭前日の午後8時には、堂々としたアーチが完成し、学園祭の夢を載せた船が見事に大海に乗り出しました。

今年も生徒達は、新しい取り組みにチャレンジしました。パンフレットの充実化、ラウンジ前の野外ステージの作成、ステージ企画のプログラム化、食券販売方法の変更等々。今年の実行

委員の生徒達は「自分達で考え自分で責任を持って自分達で活動をやり遂げる」という主体的な取り組みをやつてのけてくれました。

学園祭も最後のフィナーレの後夜祭。ここで上映した『学園祭フィルム』は、言わば、3年越しで完成したものでした。「後夜祭で自分達の学園祭を映像で振り返ろう！」という企画は、一昨年から取り組み始めたものでした。その年は、放送委員が、準備期間中に各参加団体を回って準備の様子を撮影し、それらを編集して後夜祭で上映しました。しかし、この映像には学園祭当日のものは含まれていませんでした。昨年は、準備期間中ではなく学園祭当日の様子を撮影し、放送委員が徹夜で編集しDVDにやっていたのですが、後夜祭開始時に完成出来ずに上映されませんでした。担当生徒は大粒の涙を流しました。そして、今年も準備期間中から学園祭当日までを撮影し、見事な『学園祭フィルム』が後夜祭が始まる直前に完成したのでした。そして、そのフィルムを後夜祭本番で流そうと再生ボタンを押したまさにその瞬間、なんとコンピュータのアクシデントで画面が消えてしまったのです。ステージ裏からは、トランシーバーで後夜祭司会者は「映像が出ない！とりあえず数分

つないでくれ！」という指令が飛びました。司会者はとっさにうまく対応し、客席から高2のミスターお笑い芸人を呼び出し、司会者と共にエンタの神様顔負けの漫才を演じてくれました。会場は大笑い大うけの興奮状態に一つまれました。そして、その漫才がちょうど終わる頃にコンピュータの調整が無事終了し、放送委員作成の見事な『学園祭フィルム』が上映されたのでした。そして、その後、賞の発表が行われ、様々な分野での受賞がありました。今年の学園祭大賞に輝いたのは、わずか女子が6名しかいない高2D組でした。このクラスは理系クラスらしく、ペットボトルロケットの原理を利用してピンボールを作るなど、教室全体をカジノに作り替えてしまったのでした。

後夜祭の締めくくりとして、毎年実行委員長の挨拶があります。今年も、委員長が実行委員の係長一人一人を舞台に呼び出し、全校生徒の前で、学園祭を支えた縁の下力持ち達の活躍と中高生みんなの頑張りを讃えたのでした。2日連続での雨の中行われた学園祭でしたが、全くと言っていい程、雨にも負けない学園祭が行われたと子ども達は自信を持って実感しているようです。



高二研修旅行をおえて

高校2年生にとって、体育祭、学園祭、研修旅行、合唱コンクールのすべてが、湘南学園生活最後の学校行事となります。特に研修旅行は高校生活で1度しかないことを考えると、最も大きな行事と考えられるかもしれません。今回の研修旅行も生徒の希望により北から「北海道」「関西」「四国」「長崎」の4コースが決まりましたがコース決定まで、約1ヶ月かかりました。

今回の研修旅行は、「日頃、生徒たちが経験しないことを経験させたい」、「その地方の文化や風土を学ばせたい」などの目的を持って内容を考えさせていただきました。初期の段階では、教師が計画をたてましたが、各コースの生徒が決定すると、コースの委員長が中心となり、旅行業者の方のアドバイスを参考に、細かい行動計画をたてました。4コースともいろいろ特色が出せたのではないかと思います。期日は10月22日(月)から26日(金)までの4泊5日です。ここで、各コースの行った場所、行ったことや生徒の反応について書いてみます。

【北海道コース】

このコースのみ往復飛行機を使用しました。参加生徒42名、教師2名、添乗員1名の45名で羽田空港を出発し、1時間30分で、北海道東部の中標津空港に到着しました。1日目は北

海道コースの目的の1つである酪農体験をまず半数の生徒が行い、2日目は残りの生徒が行うのです。間近で100頭以上の牛を見るのが初めての生徒も多く、牛に混じって乳を搾ったり、餌をやるのは初めての生徒がほとんどです。また、農家に宿泊し、その家の人たちと生活をともにするなど、日頃出来ない貴重な経験が出来たと思っっています。宿泊を終えた生徒を見てみると、楽しく、充実した1日を過ごせたことがわかります。農場体験以外にも「新巻鮭を作った家へ送る」「熱気球に乗る」「十勝川をボートで下る」など未知の体験や、「アイヌの歴史を学ぶ」なども行いました。生徒たちは北海道の雄大さに驚き、人の温かさに感激して帰ってきました。

【関西コース】

このコースでは、「日本の文化・伝統を考える」をテーマにして、様々な活動をしました。中でも、信貴山千手院での早朝祈禱への参加と、南禅寺での座禅体験は貴重な機会でした。日本文化の大きな柱の一つでありながら、日常生活することが滅多にない仏教の片鱗に、ほんの少しだけ触れることができたと思います。また、4日目の京都班別自主行動は、生徒が最も楽しみにしていた行事です。6〜7人のグループで1日の行動計画を作成し、京都市内を巡るのです。計画通りにはいかないことも多々ありますが、それもまたいい思い出になるでしょう。

国際化が叫ばれる昨今ですが、今回の旅行は、自分の立つその足元を見つめ直すいい機会になったのではないかと思います。

【四国コース】

このコースは「自然を守り、自然と調和しながら暮らす人々の生活に学ぶ」というテーマです。最初の目的地馬路村では、柚子狩りと間伐を体験しました。柚子のグループは、柚子の取り入れから、ジュースや柚子寿司作りまでを、二日間伐グループは、山道を切り開いて数十年ものの杉を伐採するという、かなりハードな内容でした。しかし、生徒達の達成感はとても大きかったようです。その夜の民家訪問では、「馬路村で人の温かさをつくづく感じた。馬路村にまた来たい。」と生徒達は感激でした。ホエールウォッチングや四万十楽舎での自然保護活動に関する講演会も、とても貴重な経験でした。体験の最終日は、約10kmに及ぶ四万十川の自然を水上から満喫することができました。多くの生徒が今回の研修旅行を通じて、自然の大切さだけでなく、人の温かさ、友情といったものに感動できたことがとてもよかつたと思います。

【長崎コース】

長崎コースは漁業体験と離島での生活をメインテーマとして、長崎県松浦市にある青島へと渡りました。島民の方々の温かいお出迎えもあり、生徒達をはじめは緊張をしていましたが、うち解けるまでに長時間は必

要ありませんでした。青島では終日を使って漁業体験を行いました。午前中はグループごとに港釣りや船釣りを行いました。生徒の中には、生まれてはじめて釣り竿を持ったなどという生徒もいましたが、全員が大きな魚を釣り上げていました。午後は全員で地引き網を行いました。生徒は、簡単に考えていた様ですが思ってた以上に時間や力が必要で、長時間をかけて網を引き上げた時には大きな歓声が上がりました。今回の青島での体験は、漁業体験だけにとどまらず島民の方々がお客さん扱いを生徒達にせず家族の一員として扱って頂いた事に大きな意味がありました。離島式では多くの生徒が涙を流していました。すばらしい旅行であったと思います。



四国コース



北海道コース



長崎コース



関西コース

学校法人から

【事務職員研修】

法人事務局長

法人事務局職員を対象に初めての試みとして、8月31日(金)「湘南学園における職員のあり方」をテーマに業務研修を行いました。

当日は日本私立学校振興共済事業団から比留間進情報支援室長に「私立学校における職員の果たす役割」と題して講演をお願いしました。

内容は、私立学校の入試状況と財務状況からみて全国的に二極化が進んでいること、帰属収支差額がマイナスとなっている学校法人が10年で3倍、50%に達していること等、具体的数字によって厳しい状況が紹介されました。また全国の典型的な事例の紹介を通じて、改革の重要性と職員の役割が大事であることが語られました。その後湘南学園の財務状況も具体的に分析され、参加者一同大いに刺激を受けました。

研修会では、その他に県内私学の業務研修会に参加した事務次長、会計主任からの参加報告、資料説明を行い、事

務全体で情報を共有化する努力を行なうとともに、「学園の発展と職員の役割」に関する事務局長報告と全体討論が行われました。

今回の研修を通して職員一人一人が自覚と責任を再認識し、学園への関わりを一層強められたのではないでしょう。今後も研修会を充実させ、継続していくつもりです。

【理事会報告】

センターエリア3階中会議室

- 第1回定例理事会 四月 十四日
- 臨時理事会 五月 二十一日
- 第2回定例理事会 五月 二十六日
- 緊急理事会 六月 十一日
- 第3回定例理事会 六月 十六日
- 臨時理事会 六月 二十日
- 第4回定例理事会 七月 二十一日
- 第5回定例理事会 八月 二十五日
- 第6回定例理事会 九月 二十二日
- 第7回定例理事会 十月 二十日

〈主な議題〉

- ・ 小学校建設について
- ・ 「理事・評議員選任規程」の変更について
- ・ 平成十九年度PTA会長理事就任手続き

- ・ 2008年度小学校入学者からの施設費返納について
- ・ 平成十八年度財務決算決議
- ・ 弁護士との契約の件
- ・ 学園長職務権限の一部委譲について
- ・ 平成二十年校納金改訂に関して
- ・ 学則の一部変更について
- ・ 2008(平成二十)年度予算編成方針について
- ・ 学園長選任の候補者を求める方法の決定
- ・ 法人選挙管理委員会設置
- ・ 学事からの提案及び報告
- ・ 各委員会からの提案及び報告
- ・ PTA関係提案及び報告
- ・ その他

【評議員会報告】

センターエリア3階大会議室

- 第1回評議員会 五月 二十六日
- 〈議題〉
- ・ 平成十八年度決算報告
- ・ 平成十八年度事業報告
- ・ その他

第2回評議員会

- 七月 七日
- 〈議題〉
- ・ 校納金改定について
- ・ その他

今後の予定

- 【12月】**
- 2日 幼 幼稚園 がちやべたらんど
- 3日 中高 後期中間学年末試験 (7日)
- 4日 小 6年まとめのテスト (5日)
- 8日 幼 幼稚園 もちつき大会
- 13日 小 個人面接 (14日)
- 15日 幼 幼稚園 終業の日
- 17日 中高 第3回入試説明会
- 17日 小 第1回新入保護者会 終業式
- 18日 小 5年スキー教室 (21日)
- 【1月】**
- 8日 幼 幼稚園 始業式
- 11日 小 防災訓練
- 15日 幼 幼稚園 年長懇談会
- 24日 中高 合唱コンクール
- 26日 幼 幼稚園 新入保護者会
- 【2月】**
- 2日 中学 入学試験 (3・6日)
- 4日 幼 幼稚園 豆まき
- 4日 幼 幼稚園 避難訓練
- 15日 小 制作展 (16日)
- 23日 小 半日入学
- 【3月】**
- 1日 幼 幼稚園 半日入園
- 3日 中高 学年末試験 (7日)
- 8日 幼 幼稚園 年長懇談会
- 8日 高校 卒業式
- 11日 幼 幼稚園 バス利用者招集日
- 14日 幼 幼稚園 卒業式
- 18日 小 修・卒業式
- 22日 中高 終業式